



平成 22 年 9 月 16 日
岡 山 大 学

「産学連携： 歯周病予防薬付き歯ブラシの研究」

概要： 大学院医歯薬学総合研究科歯周病態学分野がサンスター社と共同で研究した成果が、日本歯周病学会において今月に高松市において発表される。

歯周病態学分野の畑中加珠助教と高柴正悟教授は、抗菌剤である CPC を毛先に出す特別な形態の歯ブラシを歯周病治療後の支援期（SPT 期）に用いると、歯周病原性細菌叢の組成が変化するので、歯周病治療によって改善した臨床症状を維持できることを今春の歯周病学会で発表した。今回の発表では、この作用は炎症性サイトカインの産生が抑制されていることに関連することと、歯肉出血の少ない部分ではその効果が大きいことを公表する。

<内容>

今月 9 月 19 日に、香川県高松市で開催される第 53 回秋季日本歯周病学会学術大会（<http://www.med-gakkai.org/jsp-53f/>）において、サンスター社の安田多賀子研究員が、岡山大学で行った臨床研究の成果を発表する。これは、抗菌剤である塩化セチルピリジニウム（CPC）を主成分とした液体が、ワンタフトブラシといわれる一歯単位で磨く歯ブラシの毛束にしみ出てくる特別な歯ブラシの効果に関するものである。今春には盛岡市において、歯周病原性細菌叢の組成が変化するので、歯周病治療によって改善した臨床症状を支援治療（Supportive Periodontal Therapy: SPT）期間中に維持できることを発表した（日本歯周病学会会誌掲載予定）。今回は、この作用は炎症性サイトカインの産生が抑制されていることに関連することと、歯肉出血の少ない部分ではその効果が大きいことを報告する。

【発表の結論】

塗布用ブラシ一体型一般用歯周病薬の使用は、セルフケアの難しい第 2 大臼歯において悪化を抑制することが示された。また、5mm 以上の歯周ポケット深さがあり、根分岐部病変のある歯において、特に出血が少ない場合に炎症を抑制することが示された。以上のことから、本製品は SPT 期の患者のセルフケアに適していると考えられた。

<見込まれる成果>

1. 歯周病治療後に症状が改善した場合に、その維持に効果的である
2. 支援治療（Supportive Periodontal Therapy: SPT）期間の負担を軽減する



<補足>

製品に関する情報の公開は、サンスター社からのプレスリリース等の関係から、控えています。

<お問い合わせ>

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
歯周病態学分野・教授 高柴 正 悟
(電話番号) 086-235-6675
(FAX番号) 086-235-6679